



©帝国書院

写真で見る社会科

世界ナンバーワンがどっさりあるドバイ

ドバイはアラブ首長国連邦（UAE）を構成する7つの首長国の一つで、面積はUAEの約5%の3900km²、人口は120万。自国民は2割程度で外国人労働者が非常に多い。

ドバイは旧・新の二つの市街に分かれる。クリーク右岸、デいら地区の旧市街は20世紀前半までの景観を残しており、ゴールドスーク（写真⑤金市場）、スパイススーク、オールドスークなどがある。ゴールドスークは煌びやかな雰囲気があり他の二つとは対照的である。対岸の新市街とはアブラと呼ばれる小舟（写真⑥）が往来している。

もう一つはクリーク左岸の新市街で、こちらは1960年代から急速に開発が進み、今も砂漠から国際商業都市に大きく変貌しつつある。石油が発掘された1960年代以降、UAEは石油を背景に経済発展を遂げているが、石油生産があまりないドバイでは、石油に頼らない経済政策をとっている。その一つ目が、ジュベルアリ自由経済特区で、法人税、所得税、輸入関税、再輸出関税も為替の規制もない特区である。二つ目が埋め立てによる不動産業。埋

め立て計画は遠大であり、パームジュメイラ（写真①）とザ・ワールドのみ完成している。パームジュメイラの完成した高級住宅では住民が生活しているわけではなく、投資目的の感がある。三つ目は観光業である。世界一の高さをめざすブルジュドバイ（写真②）は2009年完成予定で建築中。705mの予定だが、世界一の高さを守るために公表していない。またエミレーツモールの中に、人工スキー場（写真③）があり灼熱地獄の地でスキーが楽しめる。世界一賞金が高い競馬場もお金持ちを引きつけている。

ドバイは後背地の砂漠と海水温度が高いアラビア湾に挟まれ、年中暑く年間降水量も少ないので、水不足と思われるがちであるが、ドバイのミネラルウォーターの生産は世界一、二を争うほどである。海水淡水化による水は工業用水や樹木などへの散水に使われるが、飲料水はミネラルウォーターである。ドバイ郊外のハジャー山麓で汲み上げた地下水で（写真④）、500mlで1.5ディルハム（約45円）と安い。（文責 帝国書院 遠藤潤二）

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「中学校社会科のしおり」係までお送りください。